

## 参加費

参加形態 種別	全日程 (2日間通し)	1日のみ	年会費	交流会費	※会員の方は参加費に年会費を 加えてお申込みください。 (年会費には『社会的養護研究 第4号』の代金を含む。)
会 員	8,000円	4,000円	4,000円	7,000円	
一 般	12,000円	6,000円		7,000円	
学 生	3,000円	1,500円		7,000円	

## 参加申し込み方法 **5月31日(金)「最終〆切り」**

交流会は KKR ホテル大阪での立食パーティーを準備しています。

- ① 全国児童養護問題研究会 第51回全国大会 参加申し込みフォーム(以下、申し込みフォーム)より申し込みください。その際、必ずメールアドレスが必要です。
- ② 施設等の所属より複数名で参加される場合も、**1名ずつ**申し込みしてください。
- ③ 申し込みフォームから申し込み後、正しく受付された場合には自動送信にて受付完了メールをお送りします。受付完了メールが到着しない場合は、正しく受付できておりません。入力されたメールアドレスを再度ご確認くださいとともに、念のため迷惑メールフォルダ等もご確認ください。その他、ご不明な点は事務局までメールでお問い合わせください。
- ④ 児童福祉講座・分科会は、定員によりご希望にそえない場合があります。必ず第2希望までご入力ください。

＜問い合わせ先＞

全国児童養護問題研究会 第51回全国大会 現地実行委員会事務局  
[osaka51@youmonken.com](mailto:osaka51@youmonken.com)

## 参加費の振り込み方法

- ① 参加費・年会費の合計額を下記口座へ5月31日(金)までにお振込みください。現金書留での送金は受けません。
- ② 振り込み後にキャンセルされる場合は、メールにて振り込み者名・所属をご入力の上、事務局まで送信してください。キャンセルの期日は、**6月17日(月)まで**とさせていただきます。期日までにご連絡をいただいた場合、振込手数料を差し引いた金額を返金いたします。キャンセルの期日を過ぎた場合、返金はいたしかねますが、**資料は後日送付させていただきます。**

## 振込み **参加費振込み期限:5月31日(金)**

振込み先: ゆうちょ銀行

【店 名】四一八 (ヨンイチハチ) 【店 番】418

【預金種目】普通預金 【口座番号】9985466

【口座名称】全国児童養護問題研究会 大阪支部  
(ゼンコウジンドウヨウゴモンクイケンキュウカイ オオサカブ)

【ゆうちょ銀行からの送金】記号 14140 番号 99854661

### 参加費のお振込みに関するお願い

振込みの際、できる限り参加者の個人名でご記入ください。やむを得ず、施設名で振り込まれる場合は、法人名などを省いてご記入ください。(頭文字12文字で参加者のお名前がわかるようにお願いします。)

## 駐車場のご案内

会場や近隣に駐車場やパーキングはありますが、台数が限られており、当日は駐車できない可能性があります。公共交通機関のご利用をおすすめします。駐車できる車輛高等については事前にドーンセンターのHPでご確認ください。

## 参加申し込みフォーム



### スマートフォン等より

上記、QR コードから参加申し込みフォームにアクセスしてください。

### 参加申し込み URL

<https://forms.gle/iTbFmm8oyX9wFrud8>

## 会場 MAP



未来をになう子どもたちに  
仲間とつろう豊かな実践を



# 2024 年度 全国児童養護問題研究会 第 51 回全国大会

大会テーマ  
子どもの権利としての  
社会的養護を実現するには

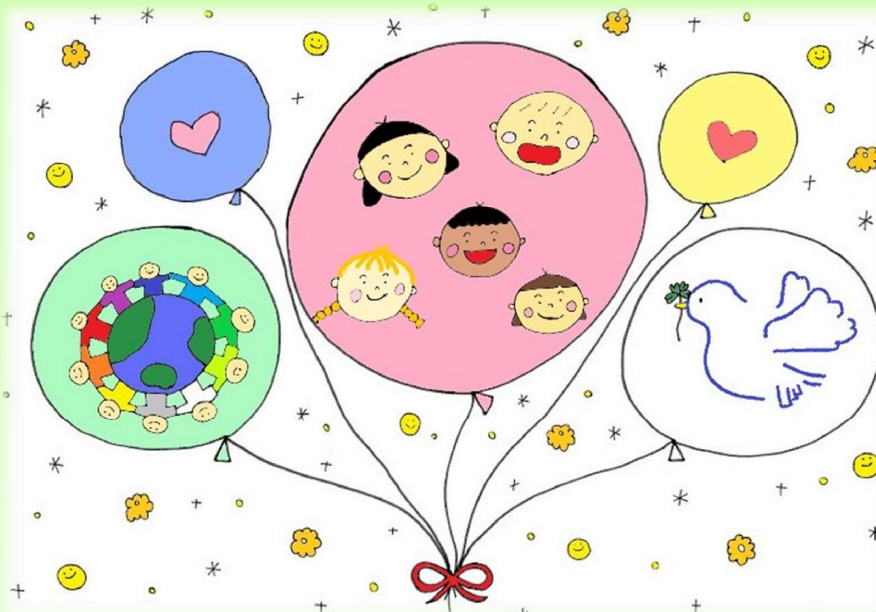
2024 6/29 土 ~ 30 日 ★28 日イベントあり別紙参照★

会場 **ドーンセンター** (大阪府立男女共同参画・青少年センター)

会場住所: 大阪市中央区大手前1丁目3番49号

電車でお越しの場合 京阪「天満橋」駅、Osaka Metro 谷町線「天満橋」駅から徒歩約 350m  
JR 東西線「大阪城北詰」駅から徒歩約 550m

バスでお越しの場合 大阪シティバス「京阪東口」からすぐ



## 参加申し込み・問い合わせ

全国児童養護問題研究会 第51回全国大会 現地実行委員会事務局

社会福祉法人 迦陵園 (担当者:若林)

E-mail: [osaka51@youmonken.com](mailto:osaka51@youmonken.com) (お問い合わせはメールでお願いします)

事務局住所 〒606-0802 京都市左京区下鴨宮崎町 109

全国児童養護問題研究会ホームページ <http://youmonken.org/>

主催  
全国児童養護問題研究会

### 後援(申請中)

大阪府  
大阪市  
大阪府社会福祉協議会  
大阪市社会福祉協議会  
朝日新聞厚生文化事業団

【開催期間】

2024年6月29日(土)・30日(日)

【開催場所】

ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)

【実行委員会】

大阪府大阪市中央区大手前1丁目3番49号

大会委員長:武藤 素明(全国児童養護問題研究会 会長)
現地実行委員長:茨木 範宏(社会福法人 大阪福祉事業財団 理事長)
大会事務局長:若林 里仁(迦陵園)
大会事務局次長:芦田 徹(つばさ園)、岡出 多申(高鷲学園)、原田裕貴子(すみれ乳児院)

第51回全国大会へのお誘い

国は「子ども基本法」を制定し、こども家庭庁を立ち上げ子ども真ん中社会の実現に向けて取り組みを開始しました。また、社会的養育の一層の充実のために「児童福祉法の改正の施行」、「次期社会的養育推進計画の策定作業」等に入っているところです。しかし、現実には、不登校・引きこもり問題、青少年の自殺の増加、児童虐待の増加等依然厳しい状況にもあり、今まさに教育現場や子ども家庭福祉現場において「子どもの意見表明権の実現」「子どもの権利保障」「子どもがすくすく育つ環境整備」の実践に取り組まなければならない時です。

全国児童養護問題研究会(養問研)は、50年以上前から子どもの権利保障やそこに関わる養育者や職員の権利保障も重要と、研究と実践、そしてアクションを展開してきました。

今年の第51回全国大会は、大会テーマを「子どもの権利としての社会的養護を実現するには」とし、現在、養問研で提案させていただいております「児童養護の実践指針(第5版)」をふまえ、社会的養護現場にて子どもの権利擁護の実践を展開するために何が必要なのかについてオンラインではなく対面にて徹底的に学びと議論の場とすることいたしました。

会場も昨年と同じ大阪府のドーンセンターにて持つことといたします。会員の皆様、また、会員でない方も、皆様お誘いあわせの上、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

全国児童養護問題研究会 会長 武藤 素明

大会スケジュール 6月29日(土)・30日(日)

Table with 4 columns: 日程, 時間, 内容, 会場. It lists the schedule for the 51st National Conference on June 29th and 30th, including sessions like 'Opening Ceremony', 'Keynote Report', 'Memorial Symposium', 'Children's Welfare Lecture', 'General Meeting', 'Exchange Meeting', and 'Closing Ceremony'.

※受付後からプログラム開始までの時間と休憩時間に書籍販売を行います。

第6分科会 | これからの家庭(的)養護
午後「児童家庭支援センターにおける指導委託ケース支援の実際～施設と家庭のはざままで～」
<報告者> 児童養護施設一陽 ケアワーカー 佐々木 ことみ 氏
児童家庭支援センター一陽 専任ソーシャルワーカー 松本 照美 氏
児童養護施設一陽 施設長 前之園 ゆりか 氏
一陽では、「施設内の養育と施設外(家庭)の養育は地続き」という考えのもと、児童相談所から受託する指導委託ケースの支援に力を入れています。今回はそうした指導委託ケースの中から二つの事例を取り上げ、施設内と家庭内、あるいはそのはざまにおける養育支援の在り方を、皆様と一緒に考えたいと思います。

第7分科会 | 施設内の専門職との連携
午前「子どもの精神科」
<報告者> 児童心理治療施設 ももの木学園 医師 宮城 崇史 氏
発達特性や逆境体験のある児童が増え、精神科医療と協働する機会は増えていると思います。「困っていない、病院は嫌」という本人と、「どう理解して、どう関わればいいのか」と悩む職員に、児童精神科はどのように役に立つ可能性があるのでしょうか。日々の実践を報告し、連携について皆さんと一緒に考えたいと思います。

午後「高鷲学園における心理職の取り組みと連携の課題について」
<報告者> 児童養護施設 高鷲学園 心理士 坂元 文 氏・竹池 優貴 氏
専門職と直接処遇職員の連携においては、コミュニケーションや役割の明確化が重要です。心理職は直接処遇職員と密接に連携し、個別ケースに適した支援を提供することを目指します。心理職の実践について報告しながら、互いの専門性を理解し合い、チーム全体で子どもの福祉に貢献できる体制をいかに構築していくか、連携の工夫や課題について考えていきたいと思います。

第8分科会 | 今後の社会的養護のあり方
午前「児童家庭支援センターにおけるフォスタリング事業の挑戦」
<報告者> 子ども家庭支援センターぎふ「はこぶね」 川嶋 久美子 氏
岐阜県は、令和2年度より児童家庭支援センターにフォスタリング事業を委託しました。以後、児家センが培ってきたソーシャルワークのノウハウを里親家庭支援に活かす挑戦が続いています。こどもたちのウェルビーイングを高めながら、地域の中で社会的養護の必要な子どもを支えて行く為、私たちにできる事を考えていきたいと思います。

午後「施設の多機能化への取り組み」
<報告者> 広島修道院 施設長 山村 拓哉 氏
現在、児童養護施設には、入所児童のケアだけでなく様々なサービス機能が求められています。少子化で措置が減少する中、安定した経営を守るために必要な事であると同時に、児童養護施設が長年養育をしてきた実績を広く社会に還元していくという意義もあると考え、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

閉会式
1階パフォーマンススペースへお集まりください。

## 「児童養護の実践指針」改定記念シンポジウム

### 「子どもの権利の歴史とこれから～養問研の役割と実践～」

<シンポジスト>

全国児童養護問題研究会 副会長 遠藤 由美、副会長 早川 悟司、調査研究部部員 長瀬 正子

養問研の活動は半世紀にわたります。一貫した中心課題が「子どもの権利の実現」です。そのよりどころとなる『実践指針』を今般改訂します。改正児童福祉法施行も踏まえ、今後の社会的養護のあるべき姿を展望します。

発言者は、「養問研のこれまで」「『実践指針 第5版』の意義と内容」「子どもの意見表明権を尊重する支援者の役割」について話します。

## 児童福祉講座

### A 子どもの生活づくり～児童養護への招待～

児童養護施設 ゆうりん 施設長 小尾 康友 氏

#### 「生活をケアする仕事とは」

面接で「なぜ児童養護施設で働きたいと思ったのですか？」と聞くと、内容はそれぞれですが、「ひとりの子どもに対して、生活の中でより深く、より丁寧に関わりたいと思ったからです」と多くの方が語ってくれます。現在、働いてみてどうでしょうか？私の理想と子どもとの関わりの実践を伝えながら、挫けそうなこと、楽しいこと、感動したこと等を皆さんと共有したいと思います。

### B 豊かな人間関係づくり

児童養護施設 一宮学園 副施設長 山口 修平 氏

#### 「対応の難しい場面をチームで補填する～組織で取り組む TIC～」

施設への入所を余儀なくされた子どもは、入所後にこれまでの成育の影響が様々な形で問題行動として表出します。施設における養育は、様々な専門職が個々の役割を發揮し、チームで育ちを紡いでいかなければなりません。職員チームづくりについて TIC の視点で発表します。

### C 援助者としてのそだちあい

広島国際大学健康科学部社会学科 教授 岡本 晴美 氏

#### 「支え育ち合う職員関係・職場環境づくり」

施設は、子どもたちのみならず、職員である大人も育つ場です。子ども職員も大切にされる場であること、そのことが生活の質、職員の支援の質を向上させ、職員の定着にもつながっていくと考えます。

本講座では、近年着目されている「心理的安全性」などの観点から、グループワークもまじえ、職員関係・職場環境づくりについて考えていきます。

### D 子どものケアニーズに応じた支援

NPO あいち障害者センター 理事長 近藤 直子 氏

#### 「しんどさを抱えた子どもの行動に秘められたステキさを理解して」

障害がある乳幼児と関わって 54 年。落ち着きがない、癩癩がひどい、偏食が始まったといった保護者の悩みや、保育室から逃げ出す、暴言や暴力が目立つといった保育者の「困りごと」の相談に乗り続けてきました。一見困った行動のように見える中に、その子のステキな可能性を見つけるための手がかりとして、こころの発達について学び直してみませんか。

## 第4分科会 | 子どものケアニーズに応じた支援

### 午前「子どもの抱える傷つき・特性に対する医療と連携したアプローチ」

<報告者>品川景徳学園 心理職 照井 悠子 氏

発達特性、愛着形成における傷つき、トラウマ体験等、多くの困難を抱える児童への支援では医療・児童相談所・児童養護施設での連携が欠かせません。職員が疲弊しながらも向き合ったケースを通じて、対応での難しさ、出来たことを振り返り、今後のケアニーズが高い子ども達への養護・支援についてともに考え、実践に活かす機会としたいです。

### 午後「不登校への対応～子どもを動機づける支援を考える～」

<報告者>フリースクール福井スコレ 代表 小野寺 玲 氏

増加する不登校に対して、私達はどのように向き合っていけば良いか？私は子ども目線と支援者目線が重なり合うところに、現実的で包摂的な支援の形が見えてくると考えています。今回は福井スコレの支援をご紹介します、子どもたちが生き生きと育つ社会について、皆さんと一緒に考えていきたいです。

## 第5分科会 | 青年期の自立

### 午前「インケアからの障害者サービスの利用と自立支援」

<報告者> 児童養護施設 和進館児童ホーム 自立支援担当職員 加藤 潤 氏

子どもが何らかの障害を抱え入所するケースは年々増えています。そうしたなかで、地域の資源を活用し個々に合わせた支援が求められていますが、思春期の障害受容の難しさ、制度上の課題があるのも事実です。本分科会では、制度上の課題をふまえ、インケアから取り組んだ障害者サービスの利用と、自立に向けた支援者ネットワークの構築について事例をもとに報告します。

### 午後「わたしたちの施設生活とその後～声に耳を傾ける～」

養問研ではこれまでも当事者の声に耳を傾ける機会を設け、アドボカシーの実践について考えてきました。本分科会では 3 名のケアリーバーに登壇いただき、施設生活当時の話や支援者の立場になった今感じること等について報告いただいた後、参加者の皆様とこれからの養護実践について気づきを深めたいと思います。

<報告者>NPO 法人 Giving Tree ピアカウンセラー 畑山 麗衣 氏

児童養護施設 和敬学園 保育士 小倉 瑞葉 氏

児童養護施設 ケアリーバー(20 代男性)

## 第6分科会 | これからの家庭(的)養護

### 午前ミニシンポジウム「子どもの育ちを繋げるために」

家庭と施設、施設間や施設と里親…さまざまなかたちで主たる養育者のバトンを繋ぐ社会的養護の子どもたち。その子どもたちの人生を丁寧に繋ぐためにできることを考えていきたいと思います。

#### 「子どもたちが切れ目ない人生を送るために」<報告者>すみれ乳児院 保育士 前口 琴美 氏

乳児院で育つ子どもたちは必ず次の養育者の元へと巣立ちます。子どもの土台となる乳幼児期を支える乳児院職員として、大きくなっていく子どもたちに残したいこと、伝えたいこと、そして次の養育者に育ちを繋いでいくためにできることをすみれ乳児院の実践を基に考えたいと思います。

#### 「繋ぐ難しさと大切さ」<報告者>地域小規模児童養護施設のぞみ リーダー 大屋 奈津希 氏

職員の入退職や異動、措置変更、里親さんとの交流など、子ども達は沢山の变化の中で生活をしています。養育を繋いでいく中で大切にしていきたいことを改めて考えてみたいと思います。

#### 「これからの家庭(的)養護について、当事者・施設職員の 2 つの視点から考える」

<報告者>中日青葉学園あおば館 主任指導員 長谷川 恵 氏

里親、特別養子縁組の当事者として子どもの頃に困ったことや悩んだこと、変えたかったこと。施設職員として今感じていること、大切だと思うこと、変えていきたいと思っていること。異なる視点からみえてきたことをお話して、みなさんと一緒にこれからの家庭(的)養護について話し合っていきたいです。

## E 青年期の自立支援

子供の家 自立支援担当職員・チーフ 渋谷 巧 氏

### 『措置延長以降の支援継続の意義と課題』

当施設では数年前から 22 歳年度末、必要に応じてこれを超えた入所支援を標準にしています。近隣アパートを用いた一人暮らし体験、独自の自立支援基金による学びや体験の機会確保等を通じて得られた成果と課題を報告します。改正児童福祉法による児童自立生活援助事業や社会的養護自立支援拠点事業の在り方について、議論を深めたいと思います。

## F これからの家庭(的)養護

広島大学 先進理工系科学研究科 助教 石垣 文 氏

### 『社会的養護における住まいの考え方』

建築学の側面から、これからの社会的養護における「住まい」や「施設」のあり方について考えていきます。話題は、家具やしつらえといった日々の生活に身近なものから、生活空間と人の動きの関係について、また施設の建て替えや維持管理といったものまで幅広く扱い、基本的な理論と事例紹介で構成します。

## G 施設内の専門職との連携

聖友学園 施設長 若松 弘樹 氏

### 『施設における多職種連携・他機関連携による施設の未来』

児童養護施設に入所している子どもの生活や支援は、施設だけで完結しません。職員は子ども(その家族を含む)にきめ細かい支援をしていく上で、関係機関との連携が不可欠です。また施設内でも様々な職種間で協働し、チームとして子どもの最善の利益を求めています。本分科会では、他機関連携と多職種連携の意義や課題について考えます。

## H 今後の社会的養護のあり方

立命館大学 名誉教授 野田 正人 氏

### 『今後の社会的養護のあり方』

こども基本法を受けて、こども家庭庁が発足し、今年度から児童福祉法の改正施行も行なわれました。子どもの権利、とりわけ最善の利益尊重の根本は変わらずとも、条件の変化は大きそうです。

この講座では、社会的養護を取り巻く最近の施策などを確認し、今後に向けた社会的養護の「不易流行」を読み解く機会としたいと思います。

## 総 会

会員の方は、1階パフォーマンススペースへお集まりください。

## ☆事前お申し込みをされた方☆

## 夕 食 交 流 会

KKR ホテル大阪 3階 銀河 〒540-0007 大阪市中央区馬場町 2-24  
大会会場から夕食交流会会場への送り便を用意しております。  
詳しくは夕食交流会に申し込みされた皆様へ後日ご案内いたします。

## 分 科 会

### 第1分科会 | 子どもの生活づくり

#### 午前「施設における“食”について考える」

＜報告者＞岡崎女子大学 子ども教育学部 吉村 謙 氏・こどもサポートネットあいち 管理栄養士 杉浦 正美 氏

施設は大きな集団生活から家庭的な生活となり、暮らし方もずいぶん変化しています。これまでもこれからも暮らしの中で食はとても重要なものだと思います。変化する施設の暮らしの中で子どもたちの食がより良いものなるようにしたいものです。東海地方の児童養護施設を対象に食について調査した結果を報告し、皆さんと共に考えたいと思います。

#### 「食べる事は生きる事～子どもたちと共に学ぶ食～」

＜報告者＞児童養護施設 名古屋文化キンダーホルト本園 調理員 高柳 公治 氏

児童養護施設 名古屋文化キンダーホルト 地域小規模児童養護施設ログ・カメラの丘 保育士 谷中 庸治 氏

「食べる事は生きる事」をテーマに調理員、現場職員がみんなでまなぶ食育を振り返ります。

- ① 食べるという事は命をいただくと言うことを踏まえて、食の大切さを考えていきます。
- ② 自分で生きていくために必要な食事。食事作りのプロではないからこそ提案できる、日常の食育を考えていきます。

#### 午後「集団作りの楽しさと難しさ～チームになろうとする子ども達を支える施設職員の存在」

＜報告者＞児童養護施設 武田塾 保育士 矢ヶ部 爽太 氏

武田塾ではフットサル部の指導を現場職員が担っています。『子ども自身が自分のしたいことを選んで努力する』をスローガンに進めてきた部の沿革から、社会的養護の子どもの抱える課題と向き合いながら生活に反映させることを目的に模索している実践を報告します。

### 第2分科会 | 豊かな人間関係づくり

#### 午前「施設における不登校児の支援について～ポジティブなチームアプローチを考える～」

＜報告者＞大阪西本願寺常照園 主任 小西 健太 氏

この研修をおとして、各施設の悩みや取り組みを共有しつつ、各施設が不登校児童とどう向き合い、どう寄り添うべきか。また、不登校児童を支える支援者がその苦悩を 1 人で抱え込まず、チームとしてポジティブに対応していくためには、何が必要なのかを考える機会としたいと思います。

#### 午後「乳児院での育ちにおいて大切にしたいこと」

＜報告者＞乳児院ほだか 施設長 北根 あづさ 氏

乳児院は、子どもが人との繋がりの基盤を造る場所となります。ほだかは、2010 年に児童養護施設ゆうりんの建て替え時に併設されました。「丁寧な養育」と「育ちを繋ぐ」ことを大切に、様々な取り組みを行っています。これまでのほだかの実践を報告しながら、乳児院の役割を考えたいと思います。

### 第3分科会 | 援助者としてのそだちあい

#### 午前「里親のチーム養育における記録の大切さ」

＜報告者＞二葉乳児院 主任・フォスタリング機関 二葉・子どもと里親サポートステーション 宮内 珠希 氏

里親家庭に委託される子ども達の多くは、施設を経て見ず知らずの家庭に迎え入れられます。里親支援では新たな生活のスタートにばかり目が行きがちですが、子どもの人生は過去から未来へつながっています。子どもたちの人生をつなぐために大きな役割を果たす「記録」について皆さんと考えられたらと思います。

#### 午後「やる気を引き出す人材育成」

＜報告者＞子どもの家ともいき 副施設長 戸高 勉 氏

児童養護施設での業務は嬉しいこともあります、苦しいことや辛いことも多いと思います。そのような中でモチベーションを維持するのは大変な事です。新任からベテランまでが前向きに子ども支援や業務に取り組めるように、定期的に話し合いの場を設ける等、現在実践している事を中心に報告します。